

シティズン・パトロール活性集会

2006

Be Seen

Be Heard

Make a Difference

特定非営利活動法人
日本ガーディアン・エンジェルス

2006年11月3日

防犯パトロールスキルアップ講座

はじめに

ガーディアン・エンジェルスは、一日30件もの殺人事件が発生していた治安の悪いニューヨークで、1979年から活動が始まりました。当時は、警察官の手が足りなくて、自分の身は自分で守るしかありませんでした。多くの市民が犯した間違いは、安全を確保するために自分には関係のないことに知らんぷりをして、他人にすっかり無関心になってしまったことです。一時は、犯罪には関わりたくないと、自分の街を捨て郊外に引っ越した市民もいて、市街地では、犯罪者がやりたい放題事件を起こすという事態にまでなりました。

もうこれ以上我慢ができない！

郊外に逃げ出すこともできない追い詰められた市民たちに残された方法とは、自らが立ち上がり、街を守る自分を守る行動に出ることだったのです。こうして立ち上がったのが、ガーディアン・エンジェルスでした。

後ほど上映するビデオをご覧になってわかるとおり、当時のメンバーは、直面する犯罪者と積極的にコミュニケーションをとり、すばやく対応できるような技術を取得し、訓練で身体を鍛えて、武器を持つ相手にでも素手で果敢に立ち向かうたくましさが必要だったのです。

構成メンバーには、特徴がありました。ほとんどが、マイノリティ（少数民族 有色人種）で、低所得層出身の若者でした。マイノリティで低所得者の若者は、犯罪に身を染める者が多いといわれていたのです。

このような若者が生活している場所では、犯罪への誘惑はもちろんのこと、事件が多数発生します。毎日をおびえながら生活していながらも、社会からは、犯罪者予備軍として見られていたのです。

創設者カーティス・スリワは、持ち前のリーダーシップと正義感という求心力で、若者達を集めました。当時のメンバーには、切羽詰まった思いが活動に込められていました。

まさに毎日が、命がけの活動だったと言えます。

日本では、1995年から活動を始めました。当時は、安全大国であると誰もが疑いもしない時代でしたが、犯罪の温床となる他人への無関心さが、いたるところで目に付き大いなる危機感を覚えました。

それ以来、防犯パトロールを開始し、講演では、＜予防活動の重要性＞を訴え続けてきたのです。

今、全国で2万6千もの団体が防犯活動をしています。関わっている人数は、165万人とされています。

リアクティブ（事後行動）な活動として誕生したガーディアン・エンジェルズから学べることは多くないかもしれません。プロアクティブ（事前行動）な日本の防犯活動に、できるだけ役立ちそうな部分を選んでお伝えしますので、活用できるようにしたらお使いくださいますようお願いいたします。

こうした事情を踏まえながら、本日は、日本の安全は自分たちが守る、自分が暮らす地域は自分が守るという意志を確認しあい、市民による防犯活動が勢いある活動になれば、たいへんに意義のある集会であると思います。

これからも同じ活動に携わる同志として手を取りあっていただきたい所存です。どうぞよろしく申し上げます。

小田 啓二

防犯パトロール

1 目的

- ・ 姿を見せて住民に安心感を与え、犯罪を抑止する
- ・ 地域や安全に関心を持つ
- ・ 地域の連帯感を高める
- ・ 体感治安（肌で感じる安心度合い）をよくする

2 心構え

- ・ 自分のまちが好きです。よいまちをつくろうと思います
- ・ 普段から社会のルールやマナーを守ります
- ・ 相手の話をよく聞き、相手の気持ちをわかろうと努力します
- ・ いつも自分だったら何ができるかを考えます
- ・ 自分と仲間の安全を確保でき、責任ある行動や言動ができます
- ・ チームワークを重んじ、お互いを支えあい尊重しながら協力します
- ・ 礼儀正しく、良き社会の模範です
- ・ 誰にでも公平に接します
- ・ 冷静です

3 取り組みへの姿勢

防犯パトロールでは、何をさておいても「察する力」が重要です。地域や人を正確に観察します。音に敏感に反応でき、その音は何の音かわかるようにします。人との対話でも、相手の表情、声の抑揚、調子でその場の様子を察します。話を良く聞き、耳と心を傾けて相手をわかろうと努力します。また、状況を正確に把握する冷静さも必要です。

- ・ 防犯活動とわかる服装をします（腕章・キャップ・ジャンパー・ベストなど）
- ・ チームワークで行動します。勝手にリーダーやパートナーの視野から、外れる個人行動は慎みます
- ・ 気を利かせて、一歩踏み込んだ行動をします
大丈夫かなと思ったら、「大丈夫ですか？」と聞きます。
危ないかなと思ったら、「危ないですよ」と声をかけます。
- ・ 困っている人がいれば進んで手伝います
きょろきょろしていたら、道に迷っているかもしれません。落とし物を探しているかもしれません。「何かお探しでしょうか？」と声をかけます。
- ・ できるだけコミュニケーション（対話）で、まちの問題を解決します。

コミュニケーションを得意とする人は、多くありません。

参考) : 92%の会員がGA入会時に不得手と思っている

意識して練習をします。最初は苦手でも、練習をすれば上手になります。

- ・ 出会う人には、挨拶や声をかけ、時間の許す限り親切、丁寧に対話します
- ・ 秩序を乱す行為には、見てみぬふりをしないで声をかけ、相手に気づいてもらえるようにします

※参考資料参照 <声かけ1>

- ・ いざとなればなかなか動けないものです。そのために想定訓練を行います
- ・ 関係機関と連携して、必要な情報や知識の習得を心がけましょう
- ・ 何も起きなかったパトロールを最大の喜びと感じられます

■具体的な活動内容

- ・ 地域の巡回（挨拶、声かけ、対話）、環境美化、浄化など地域性に合わせた活動をします。ですから、活動地域では今、何が住民を不安にしているのかを知ることが大事です。
- ・ 私たちは、一般の市民です。防犯活動を行なうにあたり、自己責任を自覚して、怪我をする、事態をさらに悪化させる、他人に迷惑をかける行為はしないようにします。
- ・ 非武装、非暴力を原則とします。

4 パトロールの前に

- ・ 人数と参加者名の確認（4人以上が好ましい）
- ・ ボディチェック
持ち物を確認します。不必要な物は持ちません
- ・ 体調チェック
参加する全員が、お互いの体調をいたわり、体調のすぐれないときには、活動は休ませます
- ・ 役割分担（その日のリーダー、サブリーダー、記録、救急、連絡など）

■役割分担

- ◆リーダー 今日のパトロールの責任者です。
迅速な判断と行動力で目の前の問題に取り組みます。前方をスキャン（観察）します。必要に応じた指示を出します。
- ◆サブリーダー 後方を含めて全体の視野をスキャン（観察）し、リーダーに伝達します。
- ◆記録担当 時間の管理をします。何時にどこから出発したか、何時にどこで活動しているのか、何時に何が起こったか。時計と筆記

- 用具メモ帳は、いつでも使えるようにしています。
- ◆連絡担当 110番、119番を通報します。
担当がいなかった場合には、サブリーダーが行います。
基地へ活動の様子を連絡します。
 - ◆救急担当 小さな怪我や泥酔者の応急手当をします。必要に応じて応急救護（人工呼吸など）を行いません

※全員が、当事者を困むことはしません。対応する以外のメンバーは、周囲の安全の確保、集まってくる人の整理、連絡や記録を担当します。貧血などで倒れた人は、3～4人に囲まれると酸素が不足してさらに苦しくなります。

■持ち物

武器または武器に準ずる物、武器のように見える物は、相手を怒らせる、怖がらせるなど誤解される原因となりますので持ちません。

◆個人で携帯する物

- 時計
- 身分証（運転免許証、名刺など）
- 携帯電話
- 手袋
- 筆記用具とメモ帳
- ライト（懐中電灯）
- ホイッスル（笛）

◆グループで携帯する物

- ゴミ袋
- 防犯ブザー
- カメラ
- 活動紹介パンフレット
- 救急用品 プラスティック・グローブ（ゴム手袋）、バンドエイド、洗浄綿、三角巾、ミネラルウォーター（可能であれば持参します。酔いを醒ましたり傷の泥を洗うなど便利に使えます）
（人工呼吸用携帯マスク）

※医師が行なう行為、薬品を使う治療行為は、原則的にできません

- ・ 緊急時の連絡系統の確認
- ・ その日の自分のパートナーを確認します
- ・ スケジュールとエリアの確認をします

今日は、どこを回るのか、何時まで回るのか、途中で帰る人がいるかなど

- ・ 今日重点目標や視点をリーダーから、簡単にお話します
- ・ 参加メンバー一人ひとりの目標を共有します
- ・ アキレス腱を伸ばすなどの準備運動をします

5 パトロール中

■好感がもてるパトロールとは

- ・ 真面目な態度であること
- ・ 姿勢がよいこと
- ・ 私語が少ないこと（私語が多いと集中力も削がれる）
- ・ 人の流れに歩調が合っていること
- ・ 警戒する気持を保つこと（適度な緊張感）
- ・ 明るく元気に挨拶ができること
- ・ 市民防犯の（プロ）意識を高く持ち、自信に溢れていること

■パトロールの方法

- ・ 目に入る光景を『スキャン（読み込む）』します
「よく見る（観る）」「よく聞く（聴く）」「よく動く」
- ・ 時計を気にします

※参考資料参照 ワークショップ <時の概念>

例) 記録をとるため

例) 方向を伝えるため

例) 通報するため

- ・ 気がついたことは、すぐにリーダーに伝えます。
- ・ リーダーは、どうするかを判断します（市民のできる限界を理解していること。仲間と自分の安全を確保できるかどうか、判断基準です。決して無理はせずに警察や消防に通報します）
- ・ 普段と違う様子は、現場でメモし、終了後に地図に記しをつけて残します
- ・ 通行を妨げているような自転車を整頓します
自転車のかごのゴミはきれいにします。但し個人の所有物の可能性があるものは注意しましょう
- ・ 歩き方（フォーメーション）交通や歩行者を妨げないようにします。

■通報の仕方

最近では、119番と110番が連動していますが、毎回確認してください。私たちが街をパトロールするにあたり、地元の警察や消防と連携することは大変重要なことです。できる限り困っている人々を助けることを目的にしていますが、事件や事故などに遭遇した際は、速やかに通報し、また、その解決に全面的に協力することは市民としての役割のひとつです。また、日ごろから情報交換などを欠かさずに行うことも必要です。



◆警察との連携

1. 情報交換

日ごろから、所轄の警察署生活安全課や地域の交番、派出所などにあいさつをするなどして、最新の犯罪情勢や傾向などを聞いておくことが必要です。

2. 通報&情報の提供

パトロール中に事件や事故を発見した際は、速やかに110番に通報します。また、現場に到着した警察官に名刺などの身分証を提示することで速やかに引き継ぐことができます。

3. 現場でのサポート

現場に到着した警察官が速やかに活動できるように、できる限りのサポート（誘導、群集整理など）を行います。

◆消防との連携

1. 情報交換&講習会の実施

日ごろから、所轄の消防署警防課や出張所などにあいさつするなどして、情報交換を行うことが必要です。また、救急救命講習などを依頼することもできます。

2. 通報&情報の提供

パトロール中に事故や災害を発見した際は、速やかに119番に通報します。また、現場に到着した隊員に正確な情報を提供します。

※参考資料参照 <通報・伝達用紙>

3. 現場でのサポート

現場に到着した隊員が速やかに活動できるように、できる限りのサポート（誘導、群衆整理、車両等の安全確保など）を行います。

▼110番のかけ方

事件や事故を目撃した際は、速やかに警察へ通報することが必要です。通常、110番に通報すると、所轄の通信司令センターのオペレーター（警察官）が対応

します。状況を報告する際は、「冷静に」「正しく」「要領よく」分かる限りの情報を伝えましょう。また、発生時間を必ず確認することが大切です。

●事件・事故発生時の通報 —主な6つの質問

1. 何がありましたか？ —事故ですか？事件ですか？
2. 場所はどこですか？ —まず区市町村から伝えます
3. いつですか？ —何分ぐらい前ですか？
4. 犯人（当事者）は？ —人相は？車両ナンバーは？
5. 現在どのような状況になっていますか？ —けが人などは？
6. あなたの氏名、電話番号は？



★携帯電話で通報する際のポイント

- ①現在地を正確に確認すること
- ②発生現場から離れないこと
- ③移動しながら通報しないこと
- ④通報後も電源を切らないこと

参考) 電柱や道路標識の「登録番号」で現在地を伝えましょう！

警視庁などでは、電柱や道路標識に割り振られた固有の番号から、瞬時に現場を特定するシステムが導入されました。電柱に地名と数けたの数字が記された標識管理番号があります。道路標識には数字が記された標識管理番号が取り付けられています。番号を通信指令台のパソコンに入力すれば、地図が即座にパソコン画面に現れ、警察署や近くのパトカーに指示できるようになっています。

▼119番のかけ方

火災や急傷病者を発見した際は、速やかに119番に通報します。正確な状況を伝えるとともに、現場に到着した消防車・救急車を誘導し、サポートすることも必要です。まず、仲間を含めた自らの安全を第一に考えましょう。

火災の場合

1. 火事ですか？救急ですか？ —火事です
2. 場所はどこですか？ —まず区市町村から伝えます
3. 何が燃えていますか？ —状況を冷静に伝えます
4. あなたの氏名、電話番号は？
5. 近くに目標となる建物などはありますか？
6. 消防車のサイレンが聞こえたら誘導してもらえますか？ —現場がわかり



にくい時は、誘導を行います。

救急（急傷病者、事故）の場合

1. 火事ですか？救急ですか？ —救急です（急病か事故か伝えます）
2. 場所はどこですか？ —まず区市町村から伝えます
3. 急病人、又はケガ人の年齢、性別は？ —正確な情報を提供します
4. 病人、又はケガ人の状態はどうですか？ —意識の有無、呼吸の有無などを正確に伝えます
5. 車から出ることができますか？（交通事故の場合）
6. あなたの氏名、電話番号は？
7. 近くに目標となる建物などがありますか？
8. 救急車のサイレンが聞こえたら誘導してもらえますか？
—現場がわかりにくい場所は、誘導を行います。



■もめごと、小競り合い、けんかの対応

まず状況を把握します。興奮して暴力を振るっているなど対応が困難だと感じたら、速やかに通報します。

もめごとなど、コミュニケーションで解決できると判断した場合には、距離を開けて、穏やかな表情と態度で冷静に話しかけます。何を言われても感情的になりません。

当事者同士を、お互いが見えない場所に誘導します。野次馬がいると引っ込みがつかなくなる時があるので、状況を見ながら人目につかない場所に誘導する場合があります。

もめている状況が、本人の得にはならないことを時間をかけながらわかってもらいます。

当事者が納得して、帰宅するなどの安全が確認できるまで、一緒にいます。

どちらが良いか悪いかの判断はしません。もめごとのない平穏な状態に戻す事を目的とします。

7 パトロール終了後

全員が無事に戻ったことを確認後、簡単な反省会をします。

一人ずつ自分が感じたこと、目標が達成できたかどうかを伝えます。

次回の予定を決めて、参加できるかどうかの確認をします。

リーダーは、全体の感想を述べます。

記録や引継ぎ事項をログに記入します。

※参考資料参照 <活動状況報告書>

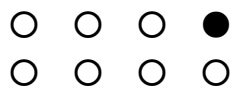
8 パトロールのテクニック

張りのあるパトロールを心がけ、工夫をします。

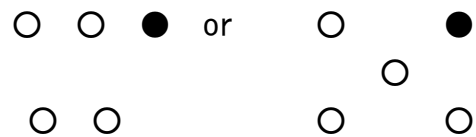
■フォーメーション

●=リーダー

(1) ダブル (偶数)



(2) ダブル (奇数)



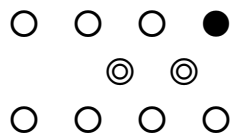
(3) シングル



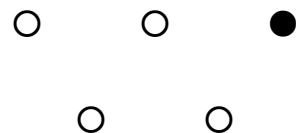
(4) スイープ



(5) エスコート



(6) ジグザグ



■スキャンとは

自分の視野に入る光景（音、声なども）を、正確に読み込み把握することです。ですから自分の役割により、リーダーは前方、列の右にいる人は右側を、左にいる人は左側を重点的に観察し、全体（360度）の視野をカバーします。

◆歩きながらスキャンする！

例) 門やドアが、開けっ放しである (スキャン) 何か起きたのかもしれませんが 声をかけてみましょう (アクション)

例) 聞きなれないガラスの割れる音、こじ開ける音、人の叫び声が聞こえた (スキャン) 近くに行き確認します (アクション)

例) 何度も普段見かけない車が通る (スキャン) ナンバーや車種を控えてお

きます（アクション）

例）エンジンをかけたままの車両（スキャン） 声をかけます（アクション）

例）焦げ臭い、異臭など（スキャン） 注意しながら近づきます、通報します（アクション）

◆立ち止まってスキャン（ポストアップ）する！

人やまちの動きが激しい、普段と違う雰囲気を感じたら、立ち止まってスキャンします。ときと場合により、手の配置を使い分けます。

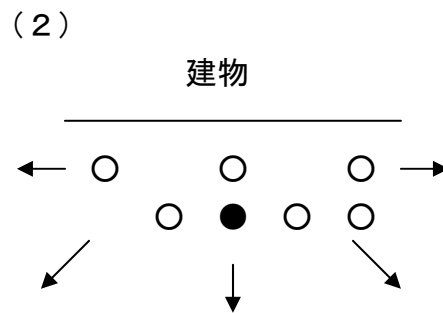
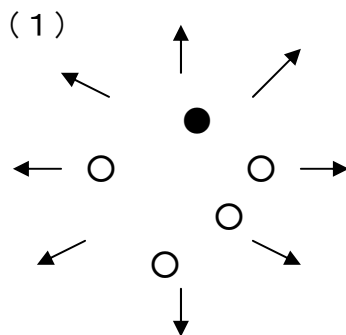
全員が外向きに立ち、全体（360度）の視野を観察します。

例）交差点で待つとき

例）不審な動きをする人物がいたとき

時と場合により、手の置き所を使い分けます。

例）腕を身体の前で組む 威圧感を与えるので注意しましょう



■ハンドシグナルの活用

騒音が激しい場所や、パトロールの人数が多く声が届きにくい、メンバーとの距離がある場合、静かな住宅街で迷惑をかけたくないときには、活用します。

右に進む 左に進む 止まる 集まる 安全を確認など決めておくとも便利です。

例）進みましょう

例）止まりましょう

例）列の組み方を変えます

例）安全を確認しました

■セントラル・ステーション（基地）の設置

パトロールの様子を常に把握する場所や人を配置します。

基地の担当者は、参加者名、パトロールの様子、現在地、まちの様子をできるだけ詳しく聞きます。

基地は、自宅でもかまいませんが、活動の最中の受け答えなど全てのやりとり

を正確に記録します。

事件や事故が発生した場合に、通報する場合があります。

記録は、証拠として提出する可能性もあります。

パトロールが無事に終了し、解散を確認するまで行います。

※参考資料参照 <ログ>

9 まとめ

(1) 長続き対策

■目標を定めます。毎回違った目標にします。月ごとの目標、自分と団体とに分けて決めます。

■研修をします。関連機関で行なう講習会などに参加して、必要な知識や情報を取り入れます。防犯アイデアを出し合ひましょう。

■練習をします。失敗例を持ち寄り、考えましょう。反省を教訓にします。こんな場合は、どうする？などのシミュレーション・トレーニングを行います。

Q&A1：地域に奉仕するとはいえ、成果を実感できないために、次第に飽きてしまい、同じ人しか集まらないなどの課題があります。

地域社会の安定の原則である安全を守る、安心を与える役割を担っていると自分に言い聞かせて、自信と使命感に燃えたパトロールを行います。

Q&A2：何かあったら怖いという問題は、想定訓練をして自信をつけることや仲間の人数を増やすことで解決できます。想定訓練をすると、自分が何をやればよいかの判断ができます。

Q&A3：マンネリ化への対策には、被害者の気持ちになりかわるという方法もあります。被害に遭った方は、予防する重要性について100%理解しています。安全に暮らせる幸せや喜び、犯罪を許さない気持ちを参加する一人ひとりが持ちます。

Q&A4：実は一緒にやりたかった、どこに連絡をすれば参加できるのだろう？と考えている人は、以外に多くいます。

町内の回覧板や掲示板などに、次回の予定や、連絡先、条件などを掲示し、できるだけ多くの住民に呼びかけます。

興味がありそうな方には、一緒にやりましょう！今度ご一緒しましょう！などと、こちらからお誘いしてお願いします。

(2) 個人の防犯力

地域でパトロールをするには、自分の防犯力をつけて、質の高い活動を行いましょう。